

INTERNATIONAL CENTER

Newsletter Vol.79

7
月号



陳芳瑜・台灣(右)
李裕史・韓国(真ん中)
林佩儀・台灣(左)

去る3月、本学の交流協定締結校の一つである中国のハルビン工程大学に、学生6名が語学研修に赴いた。同大学における中国語研修は今年で4度目。参加した6名のうち、2名は昨年から引き続き2度目の参加であった。留学生寮に滞在し、各国からの留学生と机を並べて学んだ3週間の研修の様子を、参加した学生の感想文を通して報告したい。

自己を知る。

マテリアル工学科3年

梶原 奈々

今回2度目となる中国語学研修に参加して、昨年よりも語学の重要性を認識させられたと同時に、諸外国留学生の勉強に対する姿勢は、日本人と大きく異なることを肌身で感じた3週間でした。

昨年は全くの初心者クラスA班(しかも、クラスメイトが全員北見工業大学の学生)だったので、言語の壁を感じる機会はほとんどなかったのですが、今回は私達が帰国した後も中国語学習を続けてきた人達のクラス、B2班でした。クラスメイトはタイ、韓国、アメリカ、ロシア、ガーナの人で、日本人は私を含め2名。当然のように話される言葉は中国語、



最初は戸惑いと不安がぬぐえませんでした。授業中、中国語文法の説明も中国語、教科書も文字を見て大体の意味は掴めるけれど、読めないし話せない、そういった具合で授業が終わるとしばし放心状態になる事が多かったです。

私は昨年帰国した後中国語の勉強を継続できていなかったもので、今回参加することに大きなプレッシャーを感じていました。授業初日、教科書を受け取ってすぐ授業に参加することになっていたのですが、予習の時間がない事がいっそう不安にさせました。祈るような気持ちで教科書を開き、ただの漢字の羅列に愕然(A班の教科書は“ピンイン”と呼ばれる、日本で言う振り仮名がありますが、B班の教科書にはそれがありませんでした)。自分が読めない分にはまだいいのですが、ペアになって練習することが何度もあり、読めないことで相手に迷惑をかけるのがとても心苦しかったです。辞書で調べる時間などなく、それでも、わかる部分だけでも発



音しようとしている私に、ペアになったクラスメイトは発音を教えてくれ、時にはピンインを書いてくれました。このときのクラスメイトの優しさになんだかほっとしてしまい、3週間を過ごしていけるという奇妙な自信が湧きました。また、彼らにとっても初日であるはずなのに、既に予習済みであった教科書を目にし(初日だけでなく3週間で目にしたクラスメイトの教科書には、どれも予習の跡がありました)、私は彼らの勉強にかける意気込みを実感させられ、負けずに勉強しようと思えました。



北見工業大学の学生だけがそうだと思いますが、私達は彼らのように自分から望んで勉強に取り組む姿勢を、いつからか失ってしまったように感じます。大学に入る事が目的だったわけではないのに、単位を取る事が目標ではなかったはずなのに、パチンコをしに大学に来たわけではないのに、試験を乗り切る事に死力を尽くし、生ぬるい環境に囲まれて考える力を失い、自分を見失う、何とかなるだろうと言い聞かせながら時の流れに身を任せ、そんな自分を認識させられると文句ばかりを言い連ねる。勉強が一番大事なわけではないけれど、遊ぶために大学に進学してきたわけではない。クラスメートのやる気ある姿勢を見て、こんな現状をおかしいとも認識できなくなっていた私は、自分を恥ずかしく思いました。自分が大学生であると、何を学んできたか、胸を張って言う事が出来ないくらい、意気込みも、身に着けてきたものも劣って感じられました。



しかし、そう思えた事はとても幸福な事だと思います。もっと貪欲に学ぼうと思えました。勉強に対しても、遊びに対しても、生きていく事に対しても。彼らに出会えた事でやっぱり今のままではいけないと確信できたことは、とても良い経験でした。初日の授業以来、私は予習・復習を行い、授業では話す事は難しいまでも聞き取りは日に日に上達し、理解も深まってきました。ユニークで元気なクラスメイトに恵まれたので、とても楽しかったです。听力(英語で言う、リスニングのようなもの)は最後まで不得意でしたが、それでも楽しかったと言い切れるのは、やはり彼らのおかげだったと思います。途中体調を崩す事もありましたが、引率の先生やルームメイトに看病してもらいながら授業に復帰する事ができました。

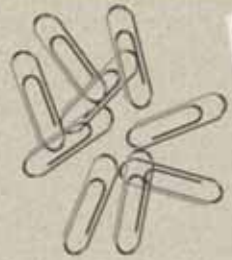
最後に、ちょっとした気づきとして、みんなシンプルに生きているという事。中国語を勉強するといったら、する。方法もシンプルに予習復習や会話。遊びたいから遊ぶ、意見があったら先生が喋っていようと発言する、解からない事を隠さない、クラスメイトが理解できたら一



東北虎林園にて

緒に喜ぶ、疲れていたなら堂々と遅刻する(これはちょっとやりすぎ)。物事を考えすぎて保守的になってしまう私には、なんだかうらやましくて、自由に生き生きとした存在に感じられました。せっかく色々な経験を積める環境にいるのだから、余計な事は考えずにやりたい事を精一杯やって、楽しんで、シンプルに生きて行こうと思います。

この研修を通じてお世話になった関係者の皆様、そして3週間を共に学んだ皆、貴重な機会をありがとうございました。



東北工業大学に餃子に来ていた学生宅に招かれて

餃子作り

美味しいドリンクを飲んで

STEP

6月19日(土) ~ 20日(日)

毎年6月に一度盛夏のような暑さが訪れる北見であるが、今年の工大祭はまさに真夏を思わせる日差しの中で開催された。年々国際色が豊かになってゆくお祭り広場では、今年は中国・韓国・台湾・ベトナムからの留学生がブースを開いた。



お茶会

メニューは順に、餃子、チヂミとプルコギ、ワッフル、フォーと揚げ春巻き。日本の祭りのお決まりメニューとは一味違った食べ物を提供し、訪れる人々に好評を博していた。

一方屋内では、今年も藤女子高校茶道部の皆さんをお招きし、国際交流お茶会が開かれた。会場に飾られた生け花は、市内の生け花教室のご協力を賜って留学生が見よう見まねで生けたもの。来場者の中には、これまた市内の着付けの先生のご協力に着物に身を包んだ留学生の姿も交じり、雰囲気を一層華やかなものとしていた。

コメント



《雪像製作奮闘記》

インターナショナルCアワー

@6月3日(木)リフレッシュルーム

6月のCアワーでは、本学大学院生の結城雄大さんが、今年の初めに中国のハルビン工程大学にて開催された、国際大学生雪像コンクールの参加報告をしてくれた。結城さんが本大会に参加するのは2年連続の2回目。報告ではまず3位入賞を果たした前年度の様子、続いて今年の奮闘の様子がスライドを交えて紹介された。普通「雪像」ときくと、雪を積み上げて巨大な雪だるまを作っていく過程を連想場合が多いと思われるが、このコンクールでは堅固に固められた巨大な雪のブロックを、のみなどで削ってゆく方式である。前年度はまずそれが大きく想定外であったとのことであったが、それがわかって今年も、慣れない彫刻作業は困難至極、加えて記録的な厳冬で外気温は日中でもマイナス20度以下。話聞き入る参加者からは、その大変さのため息がもれる一方、入賞した外国チームの微細な彫刻を施した雪像の写真に感嘆の声が上がっていた。



8・9月の

予定&お知らせ

- 7月30日(金)~8月6日(金) 前期定期試験
- 8月6日(金) 16:30~ インターナショナルCアワー
「手作りの紙でしおりを作ろう」
- 8月7日(土)~9月23日(木) 夏季休業日
- 9月24日(金)~29日(水) 集中講義・補講

☆夏休み海外語学研修☆

- 中国語研修(台湾 淡江大学・台北)
8月8日~28日 3週間 10名参加
- 英語研修(カナダ ハンバー大学・トロント)
9月3日~27日 3週間 6名参加